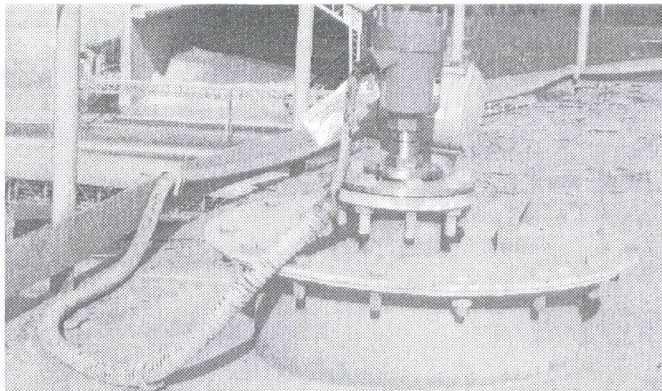


## 松島機械

# 米国の計測機に参入

## 現地メーカーとOEM契約 マイクロ波式供給



米メーカーに供給する国産初の高周波マイクロ波レベル計

【北九州】松島機械研究所（北九州市八幡西区、松島徹社長、093・691・3731）は、米国の計測機市場に参入する。現地の計測機器メーカーとOEM（相手先ブランド）契約を結んだ。国産初の高周波マイクロ波レベル計を供給する。3年後に年販1500台程度を見込む。2014年4月に社名を「マツシマメジャテック」に変更し、認知度の向上につなげる。17年3月期の海外売上高比率を12年3月期比2・5倍の50%に引き上げる。

松島機械研究所がOEM契約を結んだのは、産業用センサーが主力のビンディケーター（サウスカロライナ州）パドル式やおもりが上下動するサウンディング式などのレベル計を手がけている。しかし、米国にはマイクロ波式がないのが実情。海外でマイクロ波式の需要開拓を狙う松島機械と、ラインアップを拡充したビンディケーターの思惑が一致した。松島機械は近くほかのフィールド機器メーカーともOEM供給契約を結ぶ。高周波

マイクロ波レベル計は独・エンドレスハウザー、ウエガ、シーメンスの3社が世界市場を占有。松島機械は07年に国産初の周波数5・6ギガ、12年に同26ギガの製品開発に成功した。12年度に国内で300台を販売し、3強の牙城の一角を崩した。社名変更は海外強化策の一環。計測（メジャ）と技術（テクノロジ）を組み合わせた造語で、松島社長は「グローバルに業容を拡大するため、海外でもわかりやすい社名にする。5年以内に年5000台、世界シェア10%を獲得したい」としている。

松島機械は製鉄所や発電所向け粉体測定機やコンベヤー周辺機器を生産。13年3月期は売上高約15億円。